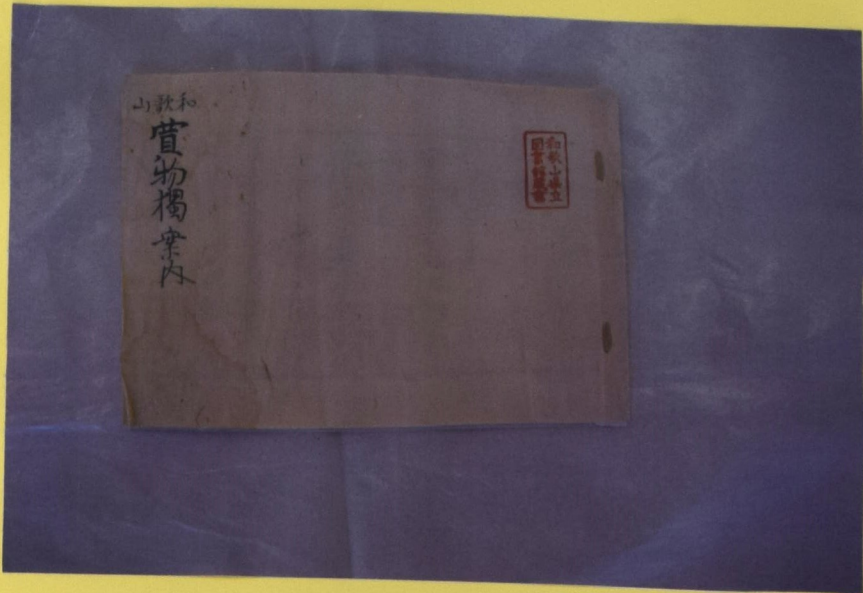


『買物独案内』 見本

3度目の出版願とともに提出された『買物独案内』の見本には、「序」で、城下町のことをよく知らない人々でも良心的な商店を選ぶことができると記されています。本文では、いろは順の業種ごとに商店の広告が並べられて、利用者が検索しやすいように工夫しています。それぞれの商店が記された部分には、住所や業種、店の名前、店主の名前、その店でできることなどが記されています。このように、江戸時代の城下町和歌山には多様な商店が立ち並び、経済活動が盛んに行われ、町人文化が栄えていたことがわかります。

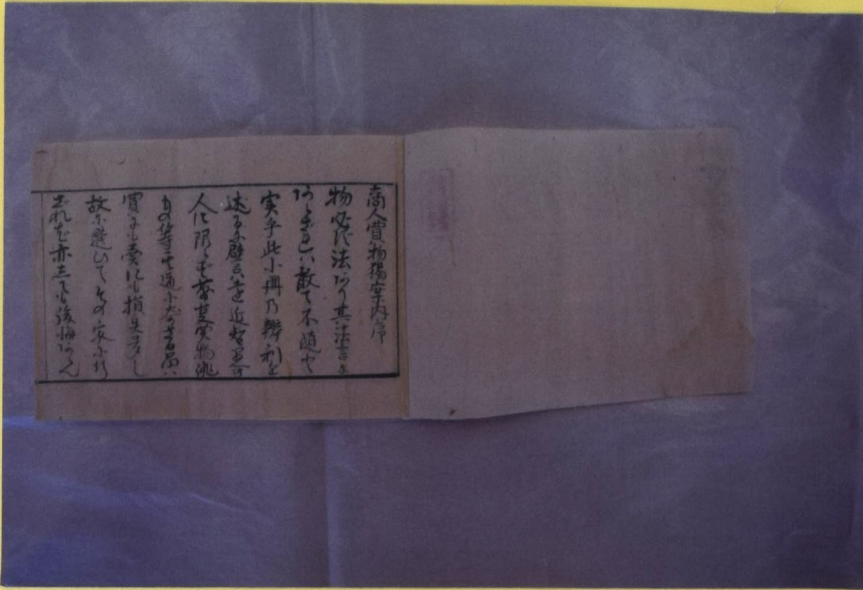


「序」

「序」では城下町をよくは知らない人々でも良心的な商品を選ぶことが出来ると『買物独案内』の効用をうたっています。本文ではいろは順の業種ごとに商店の広告を並べ、利用者が検索しやすいように工夫しています。

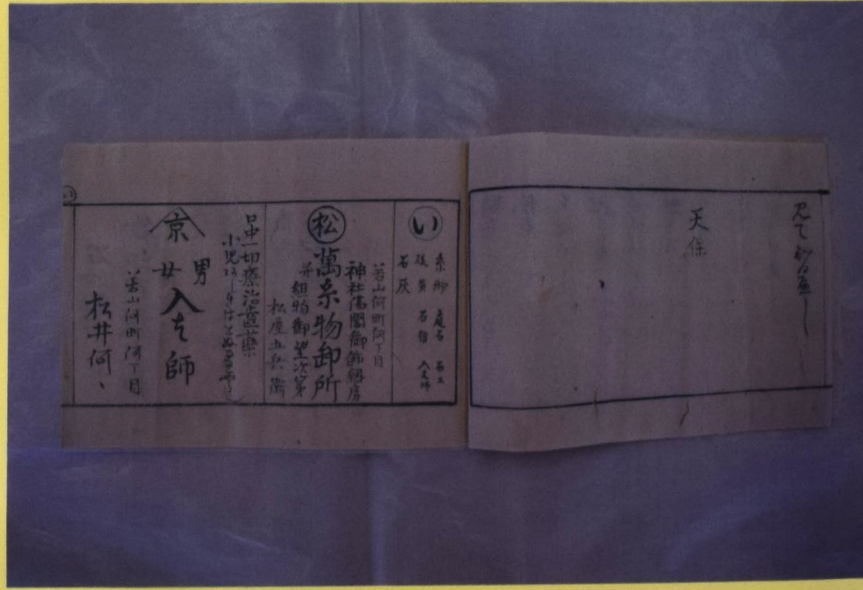
いい加減な商品は買う場合にも売る場合にも損失が多いため、その後後悔しないようにこの小冊子を出版した。その買物について調べるにはその頭文字を取って引出して見れば場所が詳しく出ているのでここに尋ねて行くとよい。そこに行って買い物をしても失敗せず、後の心配もない。和歌山の町に不案内の人々でもこの小冊子を見れば思い通りの店に行けて人に尋ねる必要もない。

というようなことが書かれています。



【翻刻】

① 糸物 庭石 石工
硫黄 石摺 入は師
石灰
若山何町何丁目
神社仏閣御飾・紐・房
万糸物卸所
井組物御望次第
松屋五兵衛
口中一切療治、歯薬
小児あしきはをぬきはやらじ
男・女 入は師
若山何町何丁目
松井何
石印・銅印
御判印・板木師
何町
何町
石灰所 何町
御好治第井庭石
石細工 何町何



い

「万糸物卸所 井組物御望次第」は糸が売られている店で糸を組んだ組物を要望通りに作り上げるという意味です。

「悪しき歯を抜きは遣らじ」と書き、虫歯を抜かないという意味です。「口中一切療治、歯薬 子児あしきはをぬきはやらじ」というのは口の中を一切治療せず、薬も使わず、子どもの虫歯は抜かないということです。

「男・女 入は師」というのは入れ歯師のことで男・女の表記があるのは当時女性にはお歯黒の習慣があり、男性とは異なる入れ歯になるためだと考えられます。

他にも印判と版木を同時に扱う御印判・板木師や石灰所、石細工の店が載っています。

